

●野菜の作業

種まき	定植 (植付け)	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホウレンソウ</li> <li>・コマツナ</li> <li>・チンゲンサイ</li> <li>・ダイコン</li> <li>・カブ</li> <li>・スイートコーン</li> <li>・ニンジン</li> <li>・シロウリ</li> <li>・セルリーなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スイカ</li> <li>・ナス</li> <li>・サツマイモ</li> <li>・オクラ</li> <li>・ゴーヤ</li> <li>・アスパラ</li> <li>・ニラ 等</li> </ul> <div style="background-color: #ADD8E6; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px 0;">収 穫</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タマネギ</li> <li>・ニンニク</li> <li>・シュンギク</li> <li>・キュウリ</li> <li>・ニラ</li> <li>・サトウ</li> <li>・ラッキョウなど</li> </ul>	<p>【果菜類の草勢管理と追肥等】</p> <p>○きゅうり                  収穫が始まるころは草勢判断のしやすい時期であり、この時期の草勢により、初期からの収量が大きく変わります。<u>開花節位と成長点の間に5～6枚の葉があればちょうど良い草勢で、強いと葉が多く、弱いと少なくなります。特に草勢が弱い場合には中段の側枝の発生が悪くなるので回復のために、早めの追肥と遅らせぎみの整枝に心がけます。</u>                  また、<u>収穫開始ごろは追肥と摘葉をはじめの時期</u>です。追肥の量は、10a当たりチッソ、カリとも成分で1回1～2kg、間隔は5～10日程度で行い、収穫量により調整します。なお、<u>液肥の場倍は成分量、間隔とも半分にします。</u>                  きゅうりは乾燥や過湿に弱く、水分不足になると曲がり果や先細果が多くなりやすいので乾燥させないように心がけます。</p> <p>○なす                  果菜類は栄養成長と生殖成長とのバランスをとって栽培することが重要ですが、<u>なすは1番果をならせることが大切で1～3番果位まで順調に着果すると草勢が落ち着き成り癖がつきます。</u>                  1番果の収穫時期は追肥の時期となり、追肥はチッソとカリを主体に10a当たり1回3kg程度を2週間～20日間隔で行い、生育状況を見ながら量と間隔を加減します。</p> <div style="text-align: center; background-color: #ADD8E6; padding: 5px; margin: 10px 0;">樹の栄養状態の判断</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>開花位置で判断：ナス</p>  <p>やや強い～健全な場合</p> <p>栄養不良の場合 (追肥を行い草勢をよくする)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>茎葉の形で判断：トマト</p>  <p>←栄養適正 茎の太さが1～1.2cm。葉はお皿を伏せた程度の曲がり具合。葉色が濃く、毛もよく伸び、みずみずしく感じる</p> <p>栄養過剰→ 葉が水牛の角のように内側に向かって、ぐるりと巻いていれば樹勢が強い証拠。葉面は凹凸ができ、葉はカールする</p> <p>←栄養不足 葉柄が細くて節間が開延びし、葉がパンザイするように上に向かってY字形になっている。葉色はあせ、葉が硬化し上巻き気味</p> </div> </div> <p>○トマト                  3段果房開花までの草勢はおとなしめで管理することで後半のスタミナがつきます。3段開花時の茎の直径が12mm程度あれば十分であり、<u>1段で3～4果着果させておくことが過繁茂を抑える確実な方法</u>となります。<u>2段開花時期はトマトの一生で最も吸肥力の強い時期</u>なので多量のかん水は禁物です。かん水量を増やしたり追肥を始める時期は接木栽培の場合は4段花房の開花時期であり、追肥は10a当たりチッソ成分で3kgを目安に2週間～20日程度の間隔で行います。液肥では20日間で3kgになる範囲で1回0.5～1kgを3～7日間隔で行います。</p>

## ●秋野菜の栽培に向けて

### 【主な秋野菜の種まき時期の目安】

種 類	播種期	定植期	種 類	播種期	定植期
ハクサイ	7/下～8/中	8/下～9/中	ブロッコリー	6/下～7/中	7/下～8/上
レタス	7/下～8/中	8/中～9/上	カリフラワー	6/下～7/中	7/下～8/上
チンゲンサイ	8/下～9/中	9/中～9/下	タアサイ	7/下～9/上	8/中～9/中
ダイコン	8/中～8/下				

### 【高温期育苗のポイント】

育苗は、一般的にはペーパーポットやポリポットなどの他、プラスチックトレイなどを用いたセル成型（プラグ）育苗などの方式があります。

夏季の高温期の育苗は、気温・地温・葉温などの上昇を抑制し品質向上や苗の保護が必要となりそのために遮光資材を用います。

作物によって遮光率は異なりますが、野菜の場合は20～30%程度の遮光が適することから白の寒冷紗を用い、ダンポールなどを用いトンネルをつくり遮光します。

最適発芽温度は、品目によっても異なりますが葉菜類の多くは概ね18～20℃前後が適温です。

また、生育も20℃前後の温度が適しており25℃を超えると生育が抑制されやすくなります。

なお、かん水は、朝夕乾き具合を見ながら行いますが、水分過多にならないよう注意します。

## 「安全・安心のための農作業の点検を！」

### 【草刈機の歯の選定】

これからの季節、重要かつ大変な作業として草刈作業がありますが、用途や特徴を理解し、効率的で安全な作業をお願いします。

種 類	主な用途と特徴
4枚刃	草刈り、裏返して使える
8枚刃	草刈り、振動が少ない
丸のこ刃	草刈り、下草刈り、笹刈り用（刃の数が多いため草の飛散が少ない）
チップソウ	草刈り、下草刈り、寿命が長い（草刈り、特に芝草に適する）
ナイロンカッター	芝草刈り、安全性が高い、木の廻り・石垣の際など金属刃ではやり難い場所に適す

また、作業は安全メガネや安全靴などを着用するとともに回転部のネジの締め付け等の点検を行ってから開始することを習慣としてください。



### 【農薬のドリフトに注意！】

・草刈同様これからの季節は、農薬による病害虫の防除が多くなりますが農薬の飛散（ドリフト）防止の対策を徹底し、安全で安心な農産物を生産しましょう。

・ドリフトとは散布された農薬が目的作物以外に漂流飛散することで、その農薬が付着した作物は販売できなくなる恐れがありますので、次の事項に注意して防除をお願いします。

○風の弱い時に風向きに気を付けて散布しましょう。（ドリフトの最も大きな要因は風です。）

○散布の方向や位置（距離）に注意しましょう。

○ドリフト低減ノズルを活用しましょう。（ただし、ドリフト低減効果を過信しないこと。）

○ドリフトしにくい剤型を選択しましょう。（粉剤は特に注意しましょう。）

○散布圧力や散布の風量を適正に行いましょう。（散布圧力を下げることで散布粒子を調整することが可能です。）

○ドリフトの起こりにくい作付け体系を進めましょう。（異なる品目や品種、収穫日の異なる同一品目の隣り合わせでの作付けは出来るだけ控える等。）

○障壁作物や防薬ネットを活用しましょう。（防除時に近接作物を直接シートなどで一時的に覆うことも有効です。）

○近隣するほ場や近隣住民へも配慮して農薬散布をしましょう。

また、農薬による危害を防ぐため、散布する作物・使用回数・使用方法の確認や作業服・ゴーグル・マスク・手袋などの服装にも注意しましょう。

**あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062**

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター  
地域生活係 中澤普及員（Tel.25-7156）